

大学

アーカイヴズ

全国大学史資料協議会東日本部会会報

2012. 3. 31 No.46

Japan Association of College and University
Archives : Eastern Japan Division

目 次

・ 沖田 哲雄「渡辺寛氏「皇學館の創立—明治十五年と学校史—」を聞いて」	1
・ 三上 敦史「全国研究会（テーマ「災害とアーカイヴズ」）に参加して」	2
・ 村松 玄太「明治大学創立130周年記念事業と大学史の関わり」	4
・ 豊田 徳子「獨協大学における講演会および見学会に参加して」	5
・ 全国大学史資料協議会2011年度総会議事録・記念講演記録	7
・ 全国大学史資料協議会2011年度役員会議事録	8
・ 全国大学史資料協議会東日本部会幹事会議事録	9
・ 全国大学史資料協議会東日本部会研究会記録	11
・ 全国大学史資料協議会東日本部会会員名簿	16

2011年10月5日～7日 全国大学史資料協議会2011年度総会ならびに全国研究会・記念講演

渡辺寛氏「皇學館の創立—明治十五年と学校史—」を聞いて

中央大学大学史編纂課 沖田 哲雄

全国大学史資料協議会2011年度総会ならびに全国研究会は2011年10月5日から7日まで、皇學館大学で開催された。

大会初日の10月5日、午後3時40分から同大学4号館431号教室で、皇學館大学名誉教授・学校法人皇學館館史編纂室長渡辺寛先生により標記の記念講演が行われた。この講演の要旨を若干の感想とともにまとめさせていただいた。

日本大学松原太郎氏の司会で、公開講演として行われたこの講演には、協議会会員に加え、多くの皇學館大学の学生や教職員の方々も参加して、大変な盛会であった。

渡辺先生は、「皇學館の創立—明治十五年と学校史—」、「久邇宮朝彦親王の御事」、「旧

制大学一覧（昭和二十年八月現在）」といった詳細なレジュメ・資料をもとに講演を進められた。

皇學館大学は明治15（1882）年の創立で、平成24（2012）年に創立130年を迎えるため、130年史の編纂中とのことであった。

明治15年4月30日の久邇宮朝彦親王の林崎文庫へ皇學館を設置するという令達が同校創立の基点であり、その目的は「専ラ神宮ニ関スル古伝ヲ明ニシ、其他神典・国史・律令・地理・物産・氏族・語学等ニ至リ、生徒ヲシテ之ヲ習熟セシメ、以テ其成材ヲ要ス」であった。同校が最も古い大学の一つでありながら、創立ののち官学となり、GHQ指令による廃学、私学として再興というような数奇な運命

を辿ってきたと説明され、この明治15年を学校史のエポックとも言うべき年と位置付けられた。

近世の林崎文庫・豊宮崎文庫以来の歴史から始まり、明治5年10月の神宮教院の開設を皇學館の源流とされ、以後同8年7月朝彦親王の初の皇族としての神宮祭主補任、翌年の専門教育機関としての神宮教院本教館開設、そして15年3月、朝彦親王の造神宮使就任を経て皇學館の設立、翌16年4月の開館式、18年1月の開講式、20年の神宮皇學館規則制定、36年神宮皇學館官制公布により内務省所管の4年制専門学校となるまでの経過を詳細な資料をもとに説明された。

このような皇學館の歴史を踏まえた上で、東京大学・帝国大学、皇典講究所・國學院等の歴史に触れながら、明治15年という年を皇學館・東京大学古典講習科・皇典講究所・東京専門学校という教育史に残る4つの学校ができたメルクマールとなる年であり、ルソー・中江兆民の『民約訳解』に象徴される文明開化の進展とこれに対抗するように勅撰の『幼学綱要』が大量に刊行された年であることを指摘された。すなわち、文明開化・欧化主義・自由主義の伸展の年である一方、これに対抗するように伝統主義・保守主義という動きも出て、両者が拮抗する年と位置付けられた。

渡辺先生には予定の1時間を越えて熱心に講演していただいたが、公開講演のためもある



講演する渡辺寛氏

てか比較的平易な表現をとられたようで、普段余り神道や神道教育に縁のない自分にも理解しやすい内容で大変興味深く拝聴した。

また、大会最終日には皇大神宮とその周辺の見学会に参加させていただき、渡辺先生のご案内で皇學館発祥の地であり、その開館式・開講式も行われた林崎文庫を見学し、講演の内容を一層深く理解することができた。加えて会期中に大学周辺の史跡や資料館などを巡ることができ、皇學館の歴史と伝統を垣間見るような思いがした。

このような機会を与えてくださった渡辺先生初め皇學館大学関係の皆様、大会運営に当たられた皆様に厚く御礼申し上げます。

全国大学史資料協議会2011年度全国研究会

全国研究会（テーマ「災害とアーカイヴズ」）に参加して

愛知教育大学大学教育研究センター愛知教育大学史資料部門 三上 敦史

翻って、自分が所属するアーカイヴズ、そして自分自身ならその場面でいったい何をなし得たのだろうか、ということ絶えず自問する濃密な時間であった。それが参加した会員に共通する感想であろう。テーマ「災害とアーカイヴズ」は、各会員が3.11から半年の間、あれこれと考えていたことを焦点化させる強

い力を持っていた。テーマ発題をされたのは松原太郎氏（日本大学大学史編纂課）だが、氏のみならず、的確なテーマ設定と報告者の人選をなさった役員諸賢の好判断に敬意を払いたい。

報告の内容は刺激的だった。まず永田英明氏（東北大学史料館）からは、東日本大震災

による被災状況やその後の対応について詳細な説明があった。附属図書館では数万冊の本が散乱し、それを元へ戻すのに職員と学生ボランティアが大わらわ、といったことが全国報道されていたので、アーカイブズも似たようなものだろうと思っていた。しかし、ドッチファイルは落下すると綴じ込んである書類が散逸すること、建物は古く雨漏りがするので事態は一層深刻であることなど、被害状況は図書館以上であった。また、過去の震災時に大学はどう対応したかについての問い合わせへの回答、さらにこの震災への対応をどう記録に残すかといった新たな業務が発生することも教えられた。阪神大震災などで被災された大学や、歴史あるアーカイブズの関係者にとっては周知のことかもしれないが、創設から2年、本会に昨年入会したばかりの新参者の想像力はそこまで及んでいなかった。

同様に、溝上真理子氏（甲南学園広報部学園史資料室）が報告された阪神大震災からの復旧の経緯も、たいへん勉強になった。明日起きてもおかしくないといわれる東南海地震の被災予想エリアに所属機関がある私などは、来たるべきその日に備えなければならないのだということを改めて教えられた。

続いて報告された永藤欣久氏（東洋学園大学東洋学園史料室）、瀬沼達也氏（関東学院学院史資料室）の報告は、もちろんさまざまな条件のもとで知恵を絞っている優れた取り組みに感心させられたが、それと同時に私には先進的かつ充実したアーカイブズの事例報告と聞こえた。小規模大学にアーカイブズは「過ぎたるもの」であってぜいたくは言えないと謙遜しつつも立派な展示室があり、24時間運転ではないものの空調設備がある東洋学園。津波の危険があることへの対応ではあるが、各キャンパスに資料を分散収蔵させたうえで、将来的には資料館を設置したいという夢を語った関東学院。一方、私の所属機関の構成員は兼任教員の私1名のみで、専門のアーキビストはおろか、専属の事務職員さえいない。附属図書館の演習室を転用した専用の部屋は与えられているが、机と本棚しかない。



総括討論の様子

各部署から非現用文書の廃棄の可否を照会されれば出向いて分別するが、それもめったにない。永久保存だと判断した文書も作成部署で保存する規則になっているので、何も移管されてこない。目先に「開学〇周年」が待っているわけでもなく、拡充計画もない。まさにナイナイ尽くしなわけで、自然、教職科目や日本教育史を講ずる教員という本来の業務にかかりきりになりがちである。深刻な事態への対応をうかがいながらこういう感想を述べるのはややおかしい気もするが、なかば羨む感覚で報告を聞いた。と同時に、自らの組織の充実をどう計るかということに思いをめぐらせたことであった。

総括討論では、それぞれの運営実態を踏まえた意見が次々と出され、それもまた刺激であった。特に心に残ったのは「日常的にプロジェクトを立ち上げてアーカイブズ存在をアピールすべきであり、それは単独では難しいので全学的なものにしていくべき」、「分散管理をするなら情報の共有をはかることが必要であり、課題→研究→討論をすすめるべき」、「非常時に優先して持ち出すべき資料について周知し、避難訓練も実施している」、「歴史的資料が重要だということではなく、歴史的にも現在の仕事をしていく上でも必要だといえるようにしなければ」、「近隣の文書館と協力態勢を築いておくべき」の5点。いずれにしても、私の場合は、まず孤軍奮闘し

てアーカイブズの実質を整備してから考えることであり、未来の宿題ではある。その日をたぐり寄せねばならない。

末筆だが、今回の全国研究会の会場は「日本人の心のふるさと」であり、はるか昔から重要な図書・文書が奉納される場所、いわば図書館兼文書館でもあった神宮（正式名称は伊勢神宮にあらず、と何度もうかがった）の一組織として創立をみた皇學館大学であった。そこで深めた研究の成果によって、全国の大学アーカイブズが一層の発展をみるように、

2011年11月10日(木) 研究会

明治大学創立130周年記念事業と大学史の関わり

明治大学史資料センター 村松 玄太

日本の大学アーカイブズの多くは周年事業の一環として開始された大学史編纂・展示事業に従事した前身を持っている。そのため再度周年事業が企画される際には一定の役割を求められることも多い。明治大学もその例外ではない。報告者の勤務する明治大学では2011年に創立130周年を迎え、同年の秋口に記念事業を実施した。当大学史資料センターは周年事業の事務局の一員としてかなり多様な事業を案出・担当することになった。

「時限のお祭り」といった要素の強い周年事業に関わることは、日々生成される資料の収集・保存を担う恒常的な大学アーカイブズに業務が変化する中で必ずしも有意ではないように見える。しかし大学アーカイブズの存在意義に対する理解がまだ深いとはいえない現状を鑑みれば、周年事業への参画は蓄積した資料や情報といった〈資源〉をどうすれば有益に活用できるか、担当者が身を以て提示できる格好の機会になり得ると考える。

それでは周年事業で大学アーカイブズはどのような役割を果たせるのだろうか。前提となるのは大学アーカイブズのもつ〈資源〉の活用を通して、大学の理念・目的の内外への発信に資する、ということである。2011年度

また東日本大震災で被災された大学アーカイブズ、さらにはすべての被災者ならびにこの国が一日も早く元気を取り戻すように祈念せずにはられない。また、お世話して下さった皇學館大学の皆さまのご尽力、なかんずく特別講演にとどまらず、有志夕食会のセッティングから資料見学会での解説までお引き受け下さった渡辺寛先生には、厚くお礼を申し上げます。濃密かつ贅沢な時間をありがとうございました、と。



講演する村松玄太氏

から大学への第三者評価項目に「内部質保証」が加わったことに象徴されるように、大学はその来歴を踏まえ、根拠ある理念・目的を明示することが求められている。周年事業では、大学の理念・目的発信がより大規模に行われる。そこでは大学アーカイブズにおける蓄積が大学の発信力を左右すると言っても過言ではない。

こう捉えたときに、周年事業における大学アーカイブズの〈資源〉の戦略的な活用策も見えてくる。2009年1月、「明治大学創立130

周年記念事業実行委員会」が組織され、事業立案がスタートした。まず報告者は周年事業に大学アーカイヴズが資する対象のイメージを立ててみた。すなわち①学内連携（他部署・学生・教職員の参加促進・モラル向上）、②卒業生組織との連携（様々な支援獲得）、③地域・産学連携（キャンパス周辺地域・企業との交流）、④新たな課題の促進（国際化推進等）、⑤そのほかの社会連携（社会一般への大学知名度向上など）である。

次にこれらの対象・目的に訴求する〈資源〉を活かした事業を他大学の過去の事例も参考に企画していった。結果、実施事業の内容は①展示、②編纂、③その他イベントに大別された。これまでの周年事業で行われてきた編纂・展示は依然として大きな柱となった。だが学内から単なる創立者顕彰や大学の歴史紹介とせず、現代性・将来性を加味して、先述の対象に幅広く働きかける企画の具体化を強く求められていた。そこで〈資源〉の見せ方に工夫をすることにした。たとえば展示においては、すでに常設の大学史展示室が設置されていることもあり、テーマを絞り、時系列も変えた。ユニークな学部教育、130周年事業のテーマであった国際化といったトピックスを立て、その現状・将来構想を紹介した上で、その前提にある過去の学部・国際化への取り組み等に遡っていく「内部質保証」の組み立てと同様の手法を取った。結果として歴史に関心の薄い層にも一定の関心を惹き起してきたように思っている。また常設の阿久悠記念館をオープンさせ、企画展示の三木武夫展を開催した。阿久や三木の資料はかねてから

当センターで受け入れていた。大学が輩出した優れた個性の紹介を通して、その個性を育んだ大学の特質も併せて知らせようとする視点から蓄積・公開に至ったものである。ほか両者に関連してコンサートと記念シンポを開催し、学外者を中心にかなりの反響があった。

編纂は、コンパクトで学生にも読みやすい『明治大学小史』と姉妹編の『明治大学小史 人物編』を刊行した。また国際化対応として『明治大学小史』の外国語版（英・中〈繁体・簡体〉・韓）を制作している。加えてこれまでの資料のデジタル化の蓄積を利用して『明治大学130年デジタル写真集』（CD-ROM）と『創立期から大学昇格期に至る明治大学財政事情』（書籍）を刊行した。後者は従来看過されがちだった財政史的側面から大学史を再考した成果であり、今後新たな大学正史を編む際の基礎作業となった。

イベントでは、学生参加、地域交流、一般の関心促進を企図した。「〈神田・神保町中華街〉プロジェクト」と題した一連の企画では、明治期からのアジア留学生街であった神田・神保町地区の歴史発掘とまちおこしを期して、靖国通りでの獅子舞パレード、歴史展示、三省堂書店でのブックフェア、老舗中華料理店をつなぐスタンプラリー、学生制作による情報誌の編集などを実施した。

事業全体の統一性を欠いた点など課題を残したものの、大学アーカイヴズの〈資源〉を活用して、とにかく内向きになりがちな周年事業を、外部発信と社会連携に振り向けていくことに一定程度寄与できたのではないかと考えている。

2012年1月17日(火) 研究会

獨協大学における講演会および見学会に参加して

東洋大学校友会 豊田 徳子

第78回研究会は、2012（平成24）年1月17日（火）午後2時30分から、埼玉県草加市にある獨協大学（中央棟3階）を会場に開催さ

れた。

今回の研究会は、講演会と見学会の2本立てで行われた。はじめに、獨協学園の歴史を

コンパクトにまとめたDVDを鑑賞後、獨協学園資料センター所長の新井孝重氏（経済学部教授）が「年史編纂事業について」と題して、獨協学園の歴史と年史編纂事業について講演された。ドイツ帝国への長期留学生によってつくられた獨逸学協会を母体として、1883（明治16）年に政府の肝煎りで設立された獨逸学協会学校が、その後、政府からの援助打ち切りなどといった時代の流れの中で、官立の学校から私立学校へとその性格を変え、協会の一人であったドイツ語学者・大村仁太郎校長によって良心や人権を尊重する進歩的・リベラルな校風（中学校）が確立されていったこと。戦後は、大村の教え子の哲学者・天野貞祐がその伝統を引継ぐとともに、中学・高校の復興にとどまらず、実業家の関湊（理事・理事長）の協力を得て、獨協大学、獨協医科大学、姫路獨協大学を設立していったことなど、3つの大学、2つの中学・高校、ひとつの専門学校を擁する現在の獨協学園につながる歴史をわかりやすくお話しいただいた。獨協学園では過去に50年史、70年史、75年史、100年史を編纂しており、その記述内容からそれぞれの編纂時の時代状況・背景をうかがうことができるという点は興味深かった。なお、100年史は、100周年にあたる1983（昭和58）年には間に合わず、創立120周年（2003年）の時に刊行されたという。

続いて、資料センター担当の中村維佐美氏（学園本部内部監査室）が「資料センター業務の現状について」と題して講演された。獨協大学40周年（2004年）に際して、記念館（現・天野貞祐記念館）の建設計画が持ち上がり、これまでの軸足が年史編纂から資料センターへと移ることになった。2007（平成19）年、天野貞祐記念館の1階に学園資料センターが発足し、学園を象徴する施設となる「獨協歴史ギャラリー」が開設された。資料センター業務のうち、資料整理については、100年史編纂時の資料で未整理のものも残っているとのことであったが、日常的な資料の整理については、その受入れから保存箱への保管に至る一連の作業について具体的な説明があった。



講演する新井孝重氏

事前にうかがったところでは、中村氏自身がかこれまで本資料協議会が行った他大学における資料の整理・保存に関する研究会に出席してその方法を参考とし、獨協学園にあったものへと応用・工夫されたとのことであった。

講演後、見学会に移り、資料センターのスタッフの方々のご協力とご案内を得て、資料が実際に保管されている旧図書館と、「獨協歴史ギャラリー」の2か所を見学した。

旧図書館1階は、家具や絵画などといった物資料や寄贈資料、中学・高校から送られてきた資料などを実際に整理・保存する場所となっており、空調等の設備も整えられていた。いずれ旧図書館は取壊されるとのことで、新たな保管場所の確保が今後の課題とはいえ、広いスペースが収蔵庫と作業室になっているのは、恵まれた環境であると思った。

歴史ギャラリーの展示は、テーマごとに6つのコーナーに分かれている。このうち天野貞祐の書齋を忠実に復元したコーナーは、学園中興の祖・天野の清廉な人柄を感じ取ることができる印象的な展示となっていた。当日は、寒さは厳しいものの風のない穏やかな日和となり、移動もスムーズに見学会を終えることができた。

全国大学史資料協議会
2011年度総会議事録・記念講演記録

日 時 2011年10月5日(水)
14時30分～15時20分

場 所 皇學館大学4号館431教室

出席会員 <東日本部会>
愛知医科大学 愛知教育大学
学習院 神奈川大学 関東学院
慶應義塾 皇學館大学 國學院大学
国土館大学 上智大学
女子美術大学 成蹊学園 専修大学
大東文化大学 拓殖大学 中央大学
東海大学 東京家政大学 東京女子
医科大学 東京農業大学 東邦大学
東北学院大学 東北大学
東洋学園大学 富山大学
日本体育大学 日本大学
北海道大学 武蔵野美術大学
明星大学 立教大学 立正大学
鈴木 秀幸 中村 青志
工藤 元 (オブザーバー)

<西日本部会>
追手門学院大学 大阪商業大学
大阪大学 大谷大学 関西大学
関西学院 京都産業大学 熊本大学
甲南大学 神戸女学院
西南学院大学 同志社女子大学
同志社大学 広島大学 福岡大学
桃山学院 立命館 龍谷大学
橋本 弘之

東日本部会=34会員40名
(内訳: 32大学38名、個人他2名)

西日本部会=19会員27名
(内訳: 18大学26名、個人他1名)

総 計=53会員67名
(内訳: 50大学64名、個人他3名)

欠席届提出会員
東日本部会=37会員
(内訳: 機関24、個人他13)

西日本部会=20会員
(内訳: 機関19、個人他1)

司 会 日本大学 松原 太郎氏

(全国大学史資料協議会東日本部会事務局)

総会に先立ち、会場校皇學館大学から協賛金提供の申し出があり、全国研究会費用に充てる旨が報告された。

会場校挨拶 学校法人皇學館大學理事長
佐古 一冽氏

開会に先立ち、司会より総会成立の報告があり、次いで3月に逝去された東日本部会個人会員中村頼道氏及び東日本大震災で被災された人々へ1分間の黙祷を捧げた。

開会挨拶 桃山学院 西口 忠氏
(全国大学史資料協議会会長校)

議長選出 議 長

愛知医科大学 山口 拓史氏
副議長

立命館大学 佐々木 雅美氏

議 題 1. 全国大学史資料協議会役員会の報告について(報告事項)

東日本部会事務局校(日本大学・松原太郎氏)から本総会開催に先立ち開催された全国役員会での審議内容について報告された(※全国役員会審議内容は「2011年度役員会議事録」を参照のこと)。

2. 2011年度東・西日本部会事業計画報告(報告事項)

東日本部会事務局(日本大学・田渕正和氏)、西日本部会庶務校(広島大学・小宮山道夫氏)から、各部会事業計画書に基づき本年度の事業計画が報告された。

3. その他

特になし。

記念講演 講師 渡辺 寛氏
(皇學館大学名誉教授・学校法人皇學館館史編纂室長)

演 題 「皇學館の創立—明治十五年と学校史—」

〔概要〕 渡辺氏の講演は、「皇學館の創立—明治十五年と学校史—」と題して、

皇學館の創立状況を中心に、学校制度の確立や関連学校の開設、政治思想などにも触れながら、明治15年を明治期の画期ととらえ、その年に創立した皇學館の意義を考えるものであった。

はじめに渡辺氏は、皇學館創立を示す最初の史料である「久邇宮朝彦親王令達」を紹介した。そして皇學館を設置することになる近世期に設けられた林崎文庫などについて詳述し、明治期に展開された大教宣布運動のなか、「教導職」の教学機関となった「神宮教院」や「神宮教院本教館」を皇學館の源流として位置づけた。また、先の令達が発布される背景として、「式年遷宮」の「造宮使」に任ぜられた親王と明治天皇のやり取りを実証的に紹介した。親王はこのとき、伊勢神宮の「古礼・古法」などの研究を求められたという。このほか親王の信任が厚い敷田年治の活動や皇學館設置の建議、開館式、開講式の様子、さらには「神宮皇學館官制」による内務省所管の四年制専門学校となった皇學館について史料に基づいて述べられた。

一方、皇學館の歩みだけではなく、学校制度の確立のほか、東京大学古典講習科、皇典講究所、東京専門学校などの設立について触れ、これらがすべて明治15年に開設されたことを言及した。さらに同年は、自由民権の思想と運動に大きな影響を与えたルソー・中江兆民『民約訳解』が刊行された年であり、また、対して勅撰の修身書である『幼学綱要』も同じく刊行されたことを指摘した。このように明治15年は、「文明開化」・「欧化主義」・「自由主義」と「伝統主義」・「保守主義」などの双方が極点化する画期であり、こうした時代状況のなか先駆けて創立した皇學館

の意義を強調したいと語り、講演をしめくくった。(齊藤研也)

見学 皇學館大学佐川記念神道博物館
案内 岡田 芳幸教授、千枝 大志助教 (皇學館大学)

情報交換会 見学終了後、皇學館大学内、倉陵会館2階にて情報交換会を開催した。司会は川崎啓一氏(関西学院)が行った。開会挨拶は全国大学史資料協議会副会長校の澤木武美氏(神奈川大学)が、乾杯の音頭は鈴木秀幸氏(東日本部会名誉会員)が務めた。新規入会会員・新規担当者などの紹介があり、閉会の辞は会場校の渡辺寛氏(皇學館大学)が行った。

全国大学史資料協議会 2011年度 役員会議事録

(第113回全国大学史資料協議会東日本部会幹事会議事録)

(全国大学史資料協議会西日本部会2011年度第3回幹事会議事録)

日時 2011年10月5日(水)

13:00~13:50

会場 皇學館大学4号館431教室

出席 (東日本部会)

神奈川大学(会長)

慶応義塾(運営委員)

國學院大学(監査委員)

成蹊学園(副会長)

大東文化大学(会計委員)

東海大学(副会長)

日本大学(運営委員・事務局)

武蔵野美術大学(運営委員・事務局)

中村 青志(運営委員)

(西日本部会)

大阪大学(副庶務校)

関西大学(会計校)

関西学院(幹事校)

神戸女学院大学(幹事校)

同志社大学(会報担当校)

広島大学(庶務校)

桃山学院 (部会長校)
立命館 (副部会長校)
龍谷大学 (監査校)

庶務校 (広島大学) より、広島
女学院大学が新入会員 (機関会員)
となった旨の報告があった。

議 題 (1) 2011年度総会・全国研究会の運
営について

- ・東日本部会事務局 (日本大学) よ
り、大会運営について、各役員の
役割分担が担当表にもとづいて確
認された。

なお、総会に先立ち、本年3月
に逝去された個人会員中村頼道氏
及び東日本大震災で被災された人々
へ黙祷を捧げることが提案され、
了承された。

(2) 2011年度の東西両部会の共同事
業について

- ・『研究叢書』編集担当の同志社大
学より、第12号が完成し総会で配
付されることが報告された。
- ・本協議会の新しいリーフレットが
完成し総会にて配付されることが、
桃山学院より報告された。
- ・2012年度総会・全国研究会の開催
について、西日本部会庶務校 (広
島大学) より、2012年10月10日～
12日に同志社大学を会場として開
催予定であることが報告された。

(3) その他

①皇學館大学よりの協賛金について

東日本部会事務局 (日本大学)
より、会場校皇學館から協賛金提
供の申し出があったことが報告さ
れ、全国研究会費用に充てる旨の
提案があり、了承された。

②『研究叢書』の送付先について

大阪大学菅氏より、『研究叢書』
の会員以外の関係諸機関等への発
送先リストについては東西両部会
で共有が図られているかとの質問
があった。今後、東西両部会で協
議の上、送付先リストの統一化を
図ることが確認された。

③新入会員について

全国大学史資料協議会東日本部会

幹事会議事録

第112回 2011年9月13日 (火) 12時～13時

会 場 武蔵野美術大学新宿サテライト

出 席 神奈川大学 慶応義塾 國學院大学
成蹊学園 大東文化大学 東海大学
東洋大学校友会 日本大学
武蔵野美術大学 中村 青志

1. 2011年度総会・全国研究会の運
営について

- ・総会・全国研究会参加者名簿

事務局 (日本大学) より総会・
全国研究会の現時点での参加者に
ついて報告があった。東西合わせ、
欠席者の委任状も含め、総会は成
立する見通しとなった。

また、オブザーバーとして工藤
元氏 (株式会社ニチマイ) の参加
が了承され西日本部会に打診す
ることになった。

- ・総会・全国研究会日程及び役割担
当表

事務局 (日本大学) より、当日
の日程及び役割担当の最終確認が
あり、了承された。

- ・東日本部会幹事会2011年度担当表
事務局 (日本大学) より、2011
年度の研究会概要・講演等記録の
担当確認があり、三重大会の見学
会担当の東洋大学校友会が欠席の
ため、東海大学が担当となったと
報告があった。

2. 2011年度研究会について

研究会担当 (東海大学) より、
研究会の開催及び企画状況の報告
があり、1月研究会を1月17日に
学校法人獨協学園資料センター/
獨協歴史ギャラリー見学会として

開催することを決定した。

3. 会員の入会について

入会申込みのあった桂典子氏（個人会員、国立女性教育会館）と東邦大学額田記念東邦大学資料室の入会を承認した。

4. ホームページの運用について

会員専用ページの運用について今後、あり方を検討していくこととなった。

5. その他

・後援依頼について

事務局（日本大学）より、協議会に対して後援依頼のあった JHK シンポジウムと DJI セミナーについて会長校、事務局で協議し、後援を了承し西日本部会に送ったとの報告があった。

・研究叢書担当について

東日本部会担当の研究叢書第13号の編集については編集委員会を立ち上げることとなった。

員の青柳小百合氏（(株)ニチマイ）の代理として、工藤元氏（(株)ニチマイ）が全国研究会にオブザーバーとして参加する旨の報告があり、了承された。

第114回 2011年10月5日（水）

13：50～14：00

会場 皇學館大学4号館431教室

出席 神奈川大学（会長）

慶応義塾（運営委員）

國學院大學（監査委員）

成蹊学園（副会長）

大東文化大学（会計委員）

東海大学（副会長）

日本大学（運営委員・事務局）

武蔵野美術大学（運営委員・事務局）

中村 青志（運営委員）

議題 (1) 2011年度研究会について

・研究会担当（東海大学）より、11月研究会の日程が8日から10日に変更となった旨の報告があり、了承された。

(2) 全国研究会のオブザーバー参加について

・事務局（日本大学）より、個人会

第115回 2011年11月10日（木）

13時～13時45分

会場 明治大学駿河台キャンパス研究棟4階第1会議室

出席 神奈川大学 國學院大學

大東文化大学 東海大学

東洋大学校友会 日本大学

武蔵野美術大学 明治大学

中村 青志

議題 (1) 2011年度総会ならびに全国研究会総括について

・事務局（日本大学）から、総会参加者数の報告と総会・全国研究会経費について報告があった。また、2012年度総会・全国研究会（西日本部会担当）が同志社大学で開催の予定であることが報告された。
・全国研究会の運営方式として、分科会の再考などの意見が出された。

(2) 2011年度研究会について

・研究会担当の東海大学より、2012年1月研究会が獨協大学で開催されることが報告され、続いて1月研究会担当東洋大学校友会より、内容の説明があった。

・2012年3月研究会について、担当の日本大学より、「大学資料の調査・収集について」をテーマとし、武蔵野美術大学新宿サテライトを会場として開催する旨説明があった。

(3) 会員の入会について

事務局（日本大学）より、富田美加氏から個人会員として入会申込みがあった旨報告があり、これを承認した。

(4) 会報の発行について

会報担当（神奈川大学）より、10月31日付で会報第45号を発行したと報告があった。なお、第46号を編集集中で、内容は2011年度総会ならびに全国研究会であると説明があった。

(5) その他

・研究叢書編集

担当（日本大学）より、『研究叢書』第13号の編集進捗状況の報告があった。

なお、『研究叢書』編集にあたり、「編集委員会」を設置する案件について、総会・全国研究会会場校に入ってもらおう等の意見が出たが、引き続き検討することとなった。

開催の研究会と協議会サイトにて、アンケートを実施し、その結果を参考にしながら計画を立てたいとの報告があった。

- ・日本大学より、研究会自体の進め方についても検討した方がいいのではないかと、という意見があり、アンケートを参考に今後話し合うこととなった。

(5) その他

・名誉会員の推薦について

候補者である石田順二氏は名誉会員としての資格を満たしており、審議の結果、総会に推薦することを決定した。

全国大学史資料協議会東日本部会研究会記録

第116回 2012年1月17日（火）
13時～14時10分
会 場 獨協大学中央棟3F
学園本部会議室
出 席 神奈川大学 國學院大學 成蹊学園
東海大学 東京経済大学
東洋大学校友会 日本大学
武蔵野美術大学 明治大学
議 題 (1) 2011年度研究会について
・研究会担当の東海大学より、2012年3月研究会が武蔵野美術大学新宿サテライトで開催されることが報告され、続いて3月研究会担当の日本大学より、内容の説明があった。
(2) 2012年度部会総会について
・事務局（日本大学）より、2012年度部会総会日程（案）の説明があり、了承された。
(3) 2012年度幹事会について
・2012年度の部会総会開催に先立って、会員に対し幹事立候補の案内を出すこととなった。
(4) 2012年度研究会について
・2012年度の研究会について、本日

名 称 全国大学史資料協議会2011年度全国研究会
(第76回東日本部会研究会)
テーマ 「災害とアーカイヴズ」
日 時 2011年10月5日（水）～7日（金）
会 場 10月5日（水）
皇學館大学4号館431教室
10月6日（木）皇學館大学記念館
10月7日（金）皇大神宮とその周辺
協 賛 皇學館大学
出 席 <東日本部会>
愛知医科大学 愛知教育大学
学習院 神奈川大学 関東学院
慶應義塾 皇學館大学 國學院大學
国土館大学 上智大学
女子美術大学 成蹊学園 専修大学
大東文化大学 中央大学 東海大学
東京家政大学 東京経済大学
東京女子医科大学 東京農業大学
東邦大学 東北学院 東北大学
東洋学園大学 富山大学
日本体育大学 日本大学
北海道大学 武蔵野美術大学
明星大学 立教大学 立正大学
鈴木 秀幸 中村 青志（東京経済

大学) 西山 伸(京都大学)
 ※オブザーバー参加 工藤 元
 ((株)ニチマイ)
 <西日本部会>
 追手門学院大学 大阪国際学園
 大阪商業大学 大阪大学 大谷大学
 関西大学 関西学院 京都産業大学
 熊本大学 甲南大学 西南学院大学
 同志社女子大学 同志社大学
 広島大学 福岡大学 桃山学院
 立命館 龍谷大学
 橋本 弘之
 東日本部会
 <機関>32校(40名)
 <個人他>4名<合計>44名
 西日本部会
 <機関>18校(26名)
 <個人他>1名<合計>27名

開会挨拶 桃山学院大学 西口 忠氏
 (全国大学史資料協議会会長校)
 全国研究会テーマ 「災害とアーカイブズ」
 テーマ発題 日本大学 松原 太郎氏
 (東日本部会事務局校)

報告1 永田 英明氏(東北大学史料館)
 「震災と大学アーカイブズ」
 [概要]

東北大学は今年3月11日の東日本大震災で被災し、現在もその対応に追われている。報告内容は二つに分かれており、前半が「史料館の被災状況と対応の記録」、後半が「災害時における大学アーカイブズの役割」についてであった。前半では、地震発生時の史料館内の様子や利用者への対応、その後明らかになってきた被害の状況、新たに発生した問題(屋根の破損により書庫に雨漏りが発生、等々)と対応が報告された。また、今回の経験に基づき、資料の被害を予防する方法も紹介された。大学全体の公文書等については7月に被災状況のアンケートが実施されたが、他部署から史料館への公文書

等の移管体制を整えることが今後の課題として挙げられた。後半では、災害時に大学アーカイブズに求められる最も重要な機能は「過去の災害対応に関する情報提供」であるとし、その前提となるものとして震災対応記録の作成や収集が挙げられ、今回の大震災に関して行われている幾つかの活動が紹介された。最後のまとめでは、災害におけるアーカイブズの責務として、①所蔵するアーカイブズを保全する、②過去のアーカイブズを素早く提供する、③将来に向けてアーカイブズの作成に関わる、の3つが挙げられた。(清野早苗)

報告2 溝上真理子氏
 (甲南学園広報部学園資料室)
 『常二備へヨ』—甲南学園と災害』
 [概要]

甲南学園は1938年の豪雨による山津波を中心とする阪神大水害と1995年の阪神・淡路大震災の2度の災害に遭遇している。今回の報告内容は、報告者が実際に体験した阪神・淡路大震災での図書館や学園史資料室の被災状況や復旧への取組みを中心とするものであった。図書館では書架の倒壊や図書の落下が甚大で、開館時間中であれば、人的被害が発生した可能性も指摘された。学園史資料室については、当時の明確な被災状況を示すものは残っておらず、復旧過程で学園史資料室は旧電子計算センターの建物に移転した。ただし、資料を保存するための施設として建てられたものでないうえ、書架が床や天井と固定されていないなど、今後の課題が多いことも紹介された。なお、甲南学園創設者平生夙三郎が残した「常二備へヨ」のこたばの精神に基づき、『阪神地方水害記念帳』の復刻や様々な形で阪神大震災の記録が編集されたことも紹介された。

(中村青志)

報告3 永藤 欣久氏 (東洋学園大学東洋学園史料室)

「電力使用制限令下の史資料保存—温湿度管理について」

[概要]

東洋学園の創設は1917年の前身校の設立、1926年の女子歯科医専の創設、その後戦後占領期の分断時期を経て文系へ転換した時期が挙げられ、1992年より現行の共学四年制大学となった。東洋学園史料室は2008年4月に設置された。当初は地下倉庫にあった資料を徐々に上階へ保存場所を移し、現在は講義棟6階建て建物の6階に位置している。通常の講義用教室だったものであり、また学内の一般的な部署と同様に集中管理システム下にあるため資料保存環境は最善ではない。加えて特に今年の震災後は節電のため学内一括で高温短時間での空調管理がなされるようになったため、資料保存管理の徹底のために温湿度を毎日測定していた記録をもとに史料室の空調見直しを申し入れた。その結果、一定の譲歩優遇を得ることができた。しかし空調の運転時間の延長はなされなかったため昼夜の温度差が懸念された。一方で除湿機の設置がなされなくても比較的安定した湿度を保つことはできた。今後は災害時や電力危機に際しての資料保存に関し、国を含めより一層の学内外の理解と知識の共有を求めたいとした報告がなされた。

(浅沼薫奈)

報告4 瀬沼 達也氏

(関東学院学院史資料室)

「水害とアーカイヴズ」

[概要]

関東学院大学は複数のキャンパスを有しており、そのうちの一つが海拔0メートルの横浜市金沢八景に位

置している。3月の大災害の折も津波警報が出され、6時間の避難を余儀なくされた。そのため水害は関東学院にとっても考えざるを得ないテーマである。

水害は大きく3つの種類に分類されるもののすべて複合災害である。水害が起こる前の防災方法は資料自体の材質や保管場所等から大きく6つの方法があると考えられる。また資料自体が消滅してしまうことの危機回避方法としては、収蔵方法を検討しかつ分散して収蔵するなどの方法が挙げられる。実際に水害被害が起こってしまった後には資料の修復復元が必要となるが、最新システムも開発されてきておりそれらの知識のもとで優先順位を確定し、各々の経費状況によってできる範囲のことを検討していかねばならない。最後に今後に向けて、複数あるキャンパスで資料を分散収蔵することや災害対策機能を施した建造物を用意すること、同窓生を中心として寄付を募り学園の歴史を守っていくこと等が提案された。(浅沼薫奈)

総括討論

司会 豊田 雅幸氏 (立教大学)

小枝 弘和氏 (同志社大学)

パネリスト

永田 英明氏 (東北大学)

溝上真理子氏 (甲南学園)

永藤 欣久氏 (東洋学園大学)

瀬沼 達也氏 (関東学院)

[概要]

総括討論は、小枝弘和氏(同志社)、豊田雅幸氏(立教大学)の司会進行で開始された。はじめに、4報告に対する質問カードの集計結果が紹介され、個別報告者ごとに質問への回答と補足説明を受けた後、大会テーマである「災害とアーカイヴズ」の討論に移った。

討論は、論点を「震災への具体的対応の問題」、「被災時におけるアーカイヴズの役割」、「大学としての対応とアーカイヴズ」、「協議会としての対応」の4点に絞って進められ、特に永田報告が提起した「災害時に役立つ情報パッケージ」の具体的な内容をめぐる議論を皮切りに、活発な議論が展開した。また、災害対策予算の確保の問題や、予算のかからない対策を検討する必要性、大学・諸機関との連携問題など、広範囲にわたる問題も論議され、最後に、協議会として長期間にわたって問題意識を持ち続けるために、研究会やホームページあるいはメーリングリストを利用しつつ、情報や成果の発信と共有を進めるべき点を確認して総括討論を終了した。(松崎彰)

*各報告と総括討論の詳細については、『研究叢書』第13号に収録予定の諸論考を参照されたい。

閉会挨拶 神奈川大学 澤木 武美氏(全国大学史資料協議会副会長校)

見学会 皇大神宮とその周辺

[概要]

全国大学史資料協議会2011年度総会・全国研究会の最終日である10月7日、「皇大神宮とその周辺」とする見学会が催された。会員たちは午前10時に宇治橋前に集合。見学会は、渡辺寛氏(皇學館大学名誉教授・学校法人皇學館館史編纂室長)の解説、および大平和典氏(館史編纂室)の案内のもと、皇大神宮を皮切りに各所を見学した。皇大神宮(内宮)は、豊受大神宮(外宮)とともに、いわゆる「お伊勢さん」として崇敬を集めた、悠久二千年の歴史を有する宮社である。皇大神宮では現在、来たる2013(平成25)年に「遷御の儀」を迎える第62回式年遷宮祭典の準備が進められている。旧「林崎文庫」

は、神宮に伝来する古書籍や古記録をかつて多数収蔵した場所であり、また本居宣長らの講義が催された修養の場でもある。敷地内に今も残る建物の古色蒼然とした佇まいや、本居宣長・柴野栗山・金森得水らの碑石は、現在国指定の史跡としてその由緒の深さを今に伝えている。見学はその後、旧参宮街道であった「おはらい町通り」を通過し、現在は神職が研修施設として利用する「神宮道場」(旧神宮司庁舎)を参観した。(椿田卓士)

第77回 2011年11月10日(木)

14時00分～17時00分

会場 明治大学駿河台キャンパス
研究棟4F第一会議室

出席 愛知教育大学 学習院 神奈川大学
國學院大學 国士舘大学 淑徳大学
上智大学 女子美術大学 創価大学
大東文化大学 拓殖大学 中央大学
東海大学 東京農業大学
東洋学園大学 東洋大学校友会
日本体育大学 日本大学
武蔵野美術大学 明治大学
立正大学

東田 全義 桂 典子 中村 青志
野澤 和範

[オブザーバー]

富田美加(茨城県立医療大学)

(以上35名)

会長挨拶 澤木 武美氏

(神奈川大学大学資料編纂室)

司会 松原 太郎氏

(日本大学大学史編纂課)

講演 村松 玄太氏

(明治大学大学史資料センター)

「明治大学130周年記念事業と大学史の関わり」

見学 「明治大学の国際交流130年展」

(アカデミーコモン地下1F)

「創立130周年記念展示」

- 67 立正大学 総務部総務課史料編纂室
〒141-8602 品川区大崎4-2-16
電話:03-3492-2681
FAX :03-5487-3338
URL :http://www.ris.ac.jp
- 68 早稲田大学 大学史資料センター
〒162-0041 新宿区早稲田鶴巻町513
早稲田大学研究開発センター
120-1号館5階
電話:03-5286-1814
FAX :03-5286-1815
URL :http://www.waseda.jp/archives/
- 69 聖学院大学 企画総務課 (休会中)
〒114-8574 埼玉県上尾市戸崎1-1
電話:048-781-0925
FAX :048-726-2962
- 70 千葉商科大学
総務課史料編纂担当 (休会中)
〒272-8512 市川市国府台1-3-1
電話:047-372-4111
FAX :047-373-4283
- 71 東京基督教大学
歴史資料保存委員会 (休会中)
〒270-1347 印西市内野3-301-5-1
電話:0476-46-1131
FAX :0476-46-1405
- 72 日本工業大学 総務課 (休会中)
〒345-8501 南埼玉郡宮代町学園台4-1
電話:0480-34-4111 (代)
FAX :0480-34-2941
- 73 立教女学院 学院資料室 (休会中)
〒168-8616 杉並区久我山4-29-60
電話:03-3334-5105
FAX :03-3334-8393
URL :http://www.rikkyo.ne.jp/grp/
jogakuin-shiryo/
- 8 大沢 泉 (八戸大学)
- 9 小川千代子 (国際資料研究所)
- 10 神谷 智 (愛知大学文学部)
- 11 桂 典子 (国立女性教育会館情報課)
- 12 北村 和夫 (聖心女子大学文学部)
- 13 倉方 慶明 (東京外国語大学大学院博士
前期課程)
- 14 坂口 貴弘 (京都大学大学文書館)
- 15 谷本 宗生 (東京大学史史料室)
- 16 寺寄 弘康 (神奈川県立歴史博物館)
- 17 富田 美加 (茨城県立医療大学)
- 18 中村 青志 (運営委員・東京経済大学)
- 19 中村 治人 (岡崎女子短期大学)
- 20 西山 伸 (京都大学大学文書館)
- 21 野澤 和範
- 22 橋本久美子 (東京芸術大学音楽学部大学
史史料室)
- 23 藤田 正 (愛媛県歴史文化博物館)
- 24 古郡 信幸 (清泉女子大学)
- 25 細井 守 (藤沢市教育委員会生涯学習
課博物館準備担当)
- 26 松山 龍彦 (国際基督教大学人事部)
- 27 三浦 和己 (株式会社 IMAGICA 東京映
像センターフィルムプロセ
ス部)
- 28 吉川 隆博

ご 案 内

全国大学史資料協議会及び同協議会東
日本部会に関するお問い合わせ、入会申
し込みは、下記へご連絡ください。

【日本大学・広報部大学史編纂課】

〒359-0003
埼玉県所沢市中富南4-25
☎ 04-2996-4555

【武蔵野美術大学・大学史史料室】

〒187-8505
東京都小平市小川町1-736
☎ 042-342-6091

【個人会員】

- 1 青柳小百合 ((株)ニチマイ)
- 2 阿部 伊作 (東京基督教大学図書館)
- 3 安藤 正人 (学習院大学大学院人文科学
研究科アーカイヴズ学専攻)
- 4 石原 一則 (神奈川県立公文書館)
- 5 伊藤 純郎 (筑波大学大学院人文社会科
学研究科)
- 6 上田 絳代 (東京女学館中学校・高等学校)
- 7 内山 宏 (日本図書館協会・日仏図書館
情報学会・経済資料協議会)

会 報 編 集

【神奈川大学・大学資料編纂室】

〒221-8686
横浜市神奈川区六角橋3-27-1
☎ 045-481-5661